

# 校長室だより (No.9)

令和5年10月11日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 学校を安全で安心できる場所にするために

令和4年度の「不登校」は小中学校で29万9048人、前年度から5万4108人(22.1%)増加し過去最多となりました。学校で認知されたいじめの件数が前年度から1割増の68万1948件となり過去最多です。児童虐待についても件数は21万9170件で、過去最多を更新しました。どうしたら学校を一人ひとりの子どもたちにとって「安全で安心できる場所」にできるかを考えていく上で、不登校、いじめ、児童虐待は、それぞれの問題のように感じていますが、全てつながっているように感じています。

「マルトリートメント」という言葉は、「不適切な養育」という意味で、1980年代からアメリカなどで広がった言葉です。体罰や虐待ほどではないですが、私たち大人が、知らず知らずのうちに、または、子どもたちにとってよい指導だと思って、適切でない発言や指導をして子どもの心を傷つけ、追い込んでしまうことがあると考えます。

具体的には、「何回言われたらわかるねん」「やる気がないんやったらもうやらんでええ」「今度やったら〇〇するから」などの言葉です。

### 問い詰める言葉の例

- ・何回言われたらわかるの？
- ・どうしてそういうことするの？

### 裏を読ませるような言葉の例

- ・やる気がないんだったら、もうやらなくていいから

### 脅しで動かそうとする言葉の例

- ・早くやらないと〇〇させないよ

### 虎の威を借るような言葉の例

- ・お母さんに言おうか

### 人と比較する言葉の例

- ・そんなこと〇〇でもやりません

### 見捨てるような言葉の例

- ・じゃあ、もういいです
- ・何回言われたらわかるの？

こういった指導の中で、子どもたちが、ルールからはみ出す仲間を問題視し、はみ出すような行動をする子、みんなと同じようにできない子を排除する雰囲気をつくりまします。その雰囲気が不登校やいじめの原因のひとつになっていると思います。高圧的な指導は、子どもたちにストレス

を与えます。ストレスを発散しようとする子は、時に人をからかうことで発散しようともします。教室にはその対象とされてしまう子もいます。学校が子どもに対してストレスフルな環境を作っていることと無関係ではないと思います。これは、虐待における社会と家庭の関係にも見ることができます。職員室内も同じです。保護者とトラブルになっている教師、効率良く仕事ができない教師、問題を起こすクラスが非難の対象になり、教師にとっても「安全な場所」ではなくなります。

学校は、毎日いろいろなことが起きる場であり、子どもたちと一緒に大人も「学び育つ」ことを楽しめる場所になればいいと考えます。